

經濟に恵まれざる程、臺所が無駄をせねばならぬ事になりて居る。特に竈が不合理であるために薪炭が多費され、炊事に時間や手数がかゝる事になつて居る。山間の町村に於て、中産以下の臺所を改善すれば、意外な節約が出来るとする。更に飯の炊き方に注意し、合理的に炊く様にすれば、何處でも薪炭の節約が出来る。婦人會や處女會乃至實行組合を督勵指導して、此點に改善を計らしむるがよい、又た計らしめねばならぬとする。

三、冠婚葬祭の贅費節約

社交儀禮は大切であるが、徒に舊慣を墨守する必要はない、特に陋習と認めて居りながら、何時までも改善節約する事が出来ぬは、天下之より愚なるはないのである。葬式に酒食を饗するが如き、婚禮に制限を設けざるが如き、爲めに負債を生ずるが如き、所謂陋習と認められてゐるものに、今尙改善を講ぜざる所がある。葬式の酒食は全廢すべし、婚禮の費用は年收益の三分の一以内たるべしとは吾輩の主唱する所であり又實行して何等の不都合を感じざりし所である。

今日の農村は何處を詮議しても、負債のない所は殆んどない。農家にして負債を有たぬも、殆んどない状態である。何故に生じた負債なる事を調査すれば、多くは葬婚に際してなしたる負債に崇られて居るのである。借金の一文字は身を亡ぼす基なりとあるが、如斯して農村の疲弊が招來され、農家の困憊が誘致さるゝは、誠に情ない事の骨頂である。斯る場合に斯る陋習を打破するは、何處でも自治事務として眞面目に考慮すべき事であるとする。

四、教育費の節約

公經濟に於て斷行すべきは、高等小學校を廢止して補習學校の設備を完成する事である。資力の豊かなる所、財力の強い所に於ても、教育費の節約はせねばならぬ事であるが故に、無用の高等小學校は廢止して可なりとする。今日の中等學校は皆尋六より連終をとつて居る。故に優秀のものや向學の餘裕のあるものは、尋六より上級の學校に行く、従つて高等小學校は低能兒の收容所である觀がある、それよりも補習學校に入れて、地方に役立つ教育をするが賢明である。此邊に忠實なる考慮を缺き、眞摯なる措置をとり得ざる教育家や爲政者が少いのは蓋し我國の禍であるのである。

交通機關の發達する今日、高等小學校を組合立にしてよい所もある。小なる村が多い我國に於ては、學校全體を組合立にしてもよい所もある。山間僻地に於て交通の便を缺く所は教育費に苦しむて居るが斯る事を斷行するを得ぬは同情の至りである。平坦部に於て之れが出来る所に斷行の勇を缺くは笑

止の至りである。政府が劃一的に割引や天引を命ずるよりも、斯る事を指摘して陋習を打破すべきである。

節約は金を使はぬ事にあらずして、有効にする事であるは、分り切つた事である。世間動もすれば節約を使はぬ事と解釋するがあるは情ない事であり、恥すべき事である。

私經濟に於ては、父兄も當人も學問や肩書を過信する弊に目醒むる事であり、彼等をして其處に目醒めしめねばならぬとする。今日大學を卒業して就職難に陥り、遊民生活をなすもあるが、之位無用の長物は天下にない。高等學校を卒業して失業者となり、不相變父兄の臂を嚙つて居るも、之位厄介な者もないのである。元來、樂をして世を渡らむと考へたり、額に汗せず衣食せむと考へて學問をしたり、肩書を有んとしたり、そうさせ様とする位、時代錯誤はあるまいとする。學校の徒にあらずして國利民福を計りつゝ、面白い日暮らしをするがあり、何等の肩書を持たずして孜々乎として、勤勞するが故に存在を認めらるゝもある。學問をして厄介物となり、最高の教育を受けて天下の穀潰しとなるは、我國の今日は許すべきでないのである。學問の徒や父兄や一般の民衆も、此處に思をいたすべきである。

如斯、論じ來り觀じ來れば、緊縮の餘地はあり、節約すべき方面もある。然し唯無暗矢鱈に緊縮を高唱し、節約を絶叫して我國民の元氣までも消沈せしむるは、角を矯めんと欲して牛を殺すの類である。天下は無智の人が多數を占めて居るが故に、爲政者や指導者は、此際深甚の注意を拂ひ、細心の工夫をせねばならぬのである。吾輩、此頃地方を巡視して所感あり

緊縮に恐縮したる民衆が

萎縮する様こそ哀なり矣

とやつたが、所によつては全く萎縮して手も足も出ぬ様になるのがある。注意すべき事であり、警戒すべき事である。

吾輩は何處でも農村計劃を力説して居る、消費節約も農村計劃として、具體的に調査立案すべきであり、地方教化の實は此處に上らねばならぬとする。眞に國家を思ふの志があらば、萬難を排して斷行の勇も出る筈であり、國難に殉ずる誠心があれば、敢行の度胸もある筈である。教化運動は空鐵砲でありてはならぬ、必ずや實行を伴ふべきである。故に教化運動を高唱する今日、農村自治體に向つて特に消費節約をくりかへし置く。

第二十四章 消費節約 (其二)

我國民は二重三重の生活様式を採用する爲めに、極めて無駄の多い弊に陥つて居るは、蓋し周知の事實である。又た勤儉貯蓄を口に筆にするが、未だ其眞髓を知らざるが爲めに、徒勞徒費の事多きも誰でも認めて居る事である。又た物の買方が下手である爲めに、極めて經濟にそはぬやり方をやつて居るも、亦此際改善すべき事である。

五、生活改善

生活改善に就ては、極めて改善の餘地が多い、公私經濟上尤も顧慮すべき事項であるが故に、町村自治體に於ては自治事務の一として調査研究をす、め、改善の具體案をつくり以て實行を急ぐべき事である。同時に、齊家の要點として各人は家庭に於て其改善を急がねばならぬとする。

生活改善の要點は、合理的に且つ合法的にする事である。徒に舊慣に囚はれたり、流行に追はるべきでない。我國は其弊を認めて舊慣に未だに制せられ、其損失を辨へて尙且つ流行に墮する陋習がある。故に、或は町村の規約を以て、或は條例を以て、律すべきがある。或は實行組合や産業組合を利

用して、初めて改善の效を見るもある。

生活改善は、今や官民間の問題となり、生活改善會まで出來て、衣食住に改善すべき要點が發表されつゝある。而も實行は遅々乎と進まぬ憾があるが故に、今日の場合を利用して斷行せねばならぬとする。

六、勤儉貯蓄の勵行

政治政策を超越した獎勵事項の一は、勤儉貯蓄である。而も勤の意義に通ぜざるが爲めに、徒勞の嘆をなす者が多く儉の意義を謬つて、徒費の弊に陥るが多いは、情ない事の限りである。特に貯蓄を悪用して、更に無駄な事を多くする弊に至つては、言語同斷の事である。

勤勉力行に志すはよく、敢行は更によいが、働き損の草臥れ儲けや、稼ぎ貧乏や、骨折つて叱かれる傘屋の小僧に墮する者は、今尙滔々乎として流をなし、風をなしつゝあるのである。勞働忌避の風も爲めに生じ、勤勞輕視の俗も亦生ずるは、今日尤も恐れて且つ戒しむべき事である。

勤は精勤、賢勤、敏勤、耐勤を具備せねばならぬものである。而も我國民は、今尙精勤のみを認め精勤の人たらしめむとして居るは愚かな事である。如何に額に汗して糞水を掬し、肩背を傷付て、勤

勞努力を散てするも學理の應用に疎でありたり、倫理の應用を閑却したり、文明の利用するに迂遠があつては、徒勞の歎は已むを得ぬのである。而も我國民は、やればよいと承知しながら斷行の勇を缺き、結果のよいを知つて尙且つ厄介だとか面倒臭いと云つて實行をせぬ。即ち行ふに敏ならざる弊は自他自覺して實行に遺憾を感じる所である。特に我國民の通弊は、倦み易く、飽き易く、よい事に辛棒強くやる事が出来ぬ事である。或は故障の爲めに、或は意外な困難の爲めに、或は邪魔が生じた爲めに、挫折をしたり、中止する憾がある。故に辛棒強い國民性をつくる事、即ち耐勤に導くは、國民指導上極めて大切なる事である。

能率増進は目下の急務であるが、それは勤の四種を具備する事であり、せしむる事である。個人の自覺を進むるもよく團體の力によつてするも可なりである。要は勤によりて能率が増進し、勞働好愛の民風を作興する事である。

儉は生かすことであり、役立たせる事であつて、殺さず、棄てぬといふ事である。身體を役立たさむと欲せば勢ひ働かざるを得ぬことになり、物質を役立たさむと欲せば、勢ひ利用厚生が巧みになり一を以て三の働きが出来たる事になる。時間を役に立たせむと思へば、自ら勵行せねばならぬ事になり

勤勞をする事になる。精神の使ひ方を役立たさむとすれば餘計な心配はせぬ事になり、必要に應じて精神を統一する事が出来る様になる。

勤儉か、儉勤か、勤は儉の結果であり、儉は勤めざるを得ざるに至らしむるものである。故に勤儉は不離不即のものであり、不可分のものである。此意味が分れば、儉を消極的に見たり、不景氣なものと考ふる餘地はない筈である。緊縮によりて緊縮を招來し、節約によりて事業に活氣が生ずべきである。世人今尙之れと反對に儉を解し、節約と思ふは、大なる誤りである。我國は、斯る誤解に禍さる、事や久しく、其の爲めに受くる損失は莫大である事に、今正に目醒めねばならぬとする。

儉も亦共同により、一致して其効果を大にする事が出来るものである。消費組合をつくるもよく規約を作り産業組合が中心になつて世話するもよい。時節柄尤も心すべきであり、實行せねばならぬは儉の方面であるは、蓋し周知の事である。

古人は

民の生は勤に在り、家道は儉にあり、唯に勤めて儉せざれば財に餘りなく唯に儉して勤めざれば財に源なし、此を之れ不足の道と謂ふ、と云つて居るが全く其通りである。

勤儉によりて収入は殖え、支出は減するが故に、收支相償ふて餘ある事になる。餘りは貯蓄となり資本の増加、身代の増殖、財産の増大を招來する。而も我國民は貯蓄が出来て油斷し、其使用を誤る風があるは、情ない事の限りである。古歌に

てりはげた 黒いおやじが とりためて

日傘で歩く 孫がせり賣り

と云ふがある。富者に三代なしとあるが、我國では通弊である。

貯蓄は、資本化、人格化、民衆化を目的として消費すべきである。即ち事業の擴張や改良が出来、人格の完成に役立ち、社會の公共、公益、慈善に偉功を上ぐる事にならねばならぬのである。

今尙、勤儉の功德を強いて、貯蓄の消費を教へざるは、教育上の缺陷であり、指導の缺點である。故に自他思を此處に輸し、個人の覺醒を促し、團體の力を以つて其實行を進むべきは、目下の急務であるとする。

七、消費組合、産業組合の利用

買ひ方の巧拙は、一家一國の經濟を支配する事であり、貧富の岐路でもある。故に經濟的に目醒め

た國民は、何處でも消費組合を組織したり、産業組合法による購買組合を設立する。我國に於ても近時其傾向を見るは、經濟上の進歩であるとするが、然し、眞に目醒めて然るが少い憾がある。消費組合が出来て其利用に忠實なる能はず、商人の巧妙に誘惑されて組合を裏切るものがあり、購買組合員でありながら、組合を利用する能はずして、舊慣に囚はれて居るものが多いは、消費組合や購買組合の數に比して、其功德を禮讚する者の少いのを徴して知るべきである。

尙買ひ方は、即時拂が有利であり、現金支拂が有功である事が徹底せず、不相變利息を拂はねばならぬ買方が流行してゐるは我國民の經濟に無自覺を證する丈けありて、國辱であるとする。

今や組合精神を説く者あり、組合指導をなすもあるが消費節約が高唱さるゝ今日、正に力を輸すべきであり、工夫に一段の努力を加ふべきである。如斯は、政黨を超越すべき事であり、國民が國家を愛する忠誠に訴へねばならぬとする。自治體に於ては此處に最善の努力と工夫とを輸すべしとする。

第二十五章 陋習打破

明治天皇陛下の五ヶ條の御誓文は、大抵は實行されたが、唯舊來の陋習を破り天地の公道に基くべ

し、の個條丈けは明治の時代が過ぎて大正の御代となり、それも過ぎて今や昭和の御代を迎へても實行されぬは、情ない事であり、明治天皇陛下に對し奉りて恐懼の至りである。

何處にも陋習はあり、何處でもそれを認めて居り、其矯正の必要を知つて居つて、之を敢行する能はざるは、我大和魂の類嬰とも謂ふべく、我民族固有の武勇の精神が退化したと考へられて、眞に遺憾の至りである。

先年、金解禁の斷行につれて其準備行爲として公私經濟の緊縮が唱導され、一面不景氣の深刻化につれて消費節約が痛感されるにつれ、到處に或は申合をなし、或は規約を作り、或は條例をさへ設けて、舊來の陋習を矯正せむ事に努むべきであり、それが眞面目に出來れば、贅費や無駄を排除する事が自ら出来るのである。

此頃、比較的頭のよい縣と認められ、又そうと自任して居る縣に行つたが、其處で數ヶ町村長の寄合で規定したのを見ると次の様な事がならべてあつた。

婚 禮

イ、嫁婿の仕度は節約を旨とし當座の必需品に限る事

- ロ、婚禮式服は褙を廢し道中着共黒紋服一着とする事
- ハ、衣類調度品は式數日後に送り展覽は絶対に廢する事
- ニ、酒食の饗應は儉素を旨とし膳部は一戸一人として近親と雖も二人を越えざる事
- ホ、嫁簪の村廻を廢し賀嫁招きを廢する事
- ヘ、嫁の部屋見舞を廢し嫁よりの土産品及茶菓の振舞を廢する事
- ト、婚約成立と同時に右事項に付き先方と協定する事

葬 儀

- イ、葬儀は嚴肅を旨とし見榮を張らざる事
- ロ、葬儀は特別の事情なき限り午後二時を以て執行する事
- ハ、村内會葬者に對しては饗應を廢し酒の振舞を廢する事
- ニ、返禮は式場にて總禮に止め七日を全廢し忌明けは近親に限る事
- ホ、葬式の節組合の手傳は當日迄とし組合は膳部に着かざる事
- ヘ、新盆の贈答は近親者に限る事

軍人の入退營

- イ、兵士送迎の宴會は一村を主體として行ふの外一切なさざる事
- ロ、送迎の際兵士の家にて飲食せざる事
- ハ、歸郷兵の土産物は全廢する事

其他一般に關するもの

- イ、豫算生活を營み努めて經費の節約を圖る事
- ロ、年末、年首、中元、節句等の贈答は節約を旨とし近親に限る事
- ハ、可成現金買を行ふ事
- ニ、保險年金及各種貯金を勵行する事
- ホ、病氣見舞に對する床揚の風習を廢する事
- ヘ、普請見舞は依頼を受けたるもの、外見舞をなさざる事
- ト、電氣水道の浪費を慎む事

陋習と認むべき事は、地方によりて異なるものがある筈である。便所に入つた當座は匂ふが、間もな

く氣にならぬと同様に、何處でも陋習に慣れて氣付かぬ事になる。然し、よく考へて見れば其處には必ず陋習のある事に氣がつく、調査をして見れば由來も分り、其始は意義のあつた事が無意義になつた事もあり、皮に重きを置いて中味を忘れたものもある。故に、立て直してよい事もあり、改善してよいもあるに相違ないのである。然し、既に斯る事が陋習であると氣がついて見れば、一日も早く改善すべきであり、斯る事は時節柄馬鹿けた事だと衆議が一致せる事は、可及的早く廢止すべきであり矯正すべきである。

機會は斯る事をなすに大切であるが故に、機會を捕ふるに敏捷でなければならぬ。それには金解禁斷行を機會に、各自の地方に於て、或は條例を以てするなり、規約をつくつてなり、方法はある筈であるから、陋習打破を敢行すべきである。

町村役場は自治の中心である以上、役場が陋習打破が出来る様に計劃を立て、方法を講ずべきは勿論の事である。然し、事によりては農會にやらせてよい事があり、産業組合が主催となりてよい事があり、實行組合がやつてよい事もあり、或は自治團體を造つてよい事もある。或は町村の總動員を行ふてよい場合もあり、事件もある。血の氣の多い青年の力によりて陋習打破をやつた所があり、唯の

一人でもよく此大事を敢行した例さへあるのである。

如何に國々によりて特有の民俗習慣を異にすと雖も、人道よりして悪い事をなすは恥づべきであり、經濟上馬鹿けた事を繼續するは、餘りに智慧のない沙汰であり、教育上否定する事を、習慣なりとて何時までもやつて居るは愚の至りであり、法律で禁じて居らぬとて、面白からぬ事と知りつゝ、やつて居るは無自覺も亦甚だしい哉である。選舉のある毎に金錢で選舉權が左右さるゝ現象は、近來目にあまる天下の陋習である。政争が地方自治體に喰ひ込むで、紛擾が繁くなり反目反抗が露骨になつて、まとまる話がまとまらず、出来る相談が出来ぬ様になり、爲めに圓滿なる自治の發達を阻止さるゝも亦、始末に困る近頃の厄介事である。

舊來の陋習を打破する能はずして、近來の陋習を招來する我自治體は、抑も何處へ行くのであらうか。農村の疲弊は日に深刻となり、地方不振の事實は年を追ふて目立つて來る。斯る折柄、地方の人農村民が陋習の弊に目醒むる能はず、目醒めて打破を敢てする能はざるは、餘りに卑怯である。如斯して、農民に社會の信用が失墜し、地方民が意氣地なしと見縊らるゝは、誠に情ない事である。

長い幕府政治が皇政復古となり、する事なす事が新しくなつた明治維新の當時と思へば、今日陋習

の打破に舉國一致の力をいたすは何んでもない事である。希くば、當時の爲政者が熱烈なる愛國心と眞劍の努力とを輸たした態度が、今日の自治體當局者に見る事が出来ねばならず、國民の力が當年に比して恐ろしく進んだ今日、國民自覺の力によつても陋習の打破は出来ねばならぬのである。

自治體の自治事業として、各自治體の陋習が一掃されんことを、國難が叫ばるゝ今日、敢て希望する。

第二十六章 教化事業

眞摯なる民風を發揚し、醇厚の民俗を涵養するは、地方振興の要諦である。従つて教化的事業は自治事業として閉却してはならぬことであり、有志、有力の人が常に用意すべきことである。

岐阜縣は土岐郡妻木村の水野英三氏は醫師であるが夙に報德會を組織して、報德の道を宣布しつゝ、ある。一日と十五日とは神社の掃除をなし、參詣をなさしめて居るが、如斯して知恩報德の民風を涵養しつゝ、あるは、此處彼處に在る。名古屋市の中央である下茶屋町で長谷川半兵衛氏が報德會を組織し、金融を圓滑にすべく勤儉貯蓄の民風を涵養して、偉功を奏して居るは周知の事である。今日は

之れが郡部にまで擴張され、碧海郡の高岡村でも報徳會が出來、長谷川氏は多忙であるのに毎月指導をやつて居る。

岐阜縣は惠那郡の坂下町には古井乙吉氏あり、夙に敬老會を開きつゝあるが、今や町の事業に進展して來た。坂下町では、

決 議

一、坂下町民は敬老の意を以て毎年一戸當り九十歳者に對し金壹錢、九十五歳者に金參錢、百歳に金五錢宛を醸金し、即ち九十歳に金拾圓、九十五歳に金參拾圓、百歳に金五拾圓也を表彰狀に副へ授與の件

一、期日は毎年一月一日の四方拜賀式直後地方改良會長之を行ふの件

を昭和五年一月一日午前十時坂下小學校庭に於て實行し始めたが、表賞者五名一人も缺席なく、表賞されたものも表賞した者も參列した者も、皆嬉し涙にくれたとあるが、さもありませんと想像が出来る古井氏は感慨無量、熱淚がとめどなく出たと知らせて呉れたが、懐かしく思ふ大和魂に目醒めしむる方便として、斯ることは何處でもやつて貰ひ度しと念願することである。

今までは、青年會の事業として敬老會が此處彼處で行はれたものであるが、之れが廢退の傾向であるのは情けないことである。家に於ても、町村に於ても、多年苦勞した勤功の人を粗略にするは、人道の上より見ても悪いことである。望がなくなり、寂莫の感に堪へない人々に同情して、環境を温かに面白くして老後を慰めるは、蓋し人情の極致である。

愛知郡の知多郡富貴村は、公老會が出來て居り、青年男女は年に一度公老會員を慰勞することにして居る。公老會は村の公共事務に關係した人を以て組織するのである。役場吏員であつたり、議員であつたり、區長であつたり、學務委員であつたり、消防であつたりした人々を網羅し、其目的は役場の後押をして村治の圓滿と進展とをはかる爲めである。多年村の公共公益の事業に貢獻し、更に村治の後援をなすが公老會であつて見れば之等の人々に感謝の意を表し慰勞をするは當然の事である。斯くすることによつて、何人も村の爲めに盡さねばならぬ心持となり、衷心村の爲めに盡くすことになる。故に如斯施設は何處にも出來してよいことであり、出來さねばならぬことであるとする。

三重縣の一志郡鵜村では、村治に多年盡悴した黒瀬氏のために彰徳碑を建て、耕地整理の爲めに盡力した人の爲めにも表彰碑を建てたが、之れ亦教化に多大の効果がある。動もすれば人の功をねたみ

人の成名をそねみ、爲めに中傷を試み悪口をたく、弊風があり勝の農村に於て、功勞者の功勞を表彰するはよい事である。愛知縣の碧海郡安城町には町長岡田菊次郎氏の銅像が建てられ、同町福釜には明治用水の功勞者杉浦源右衛門氏の銅像が建てられ、同郡明治村和泉には明治用水創始者都築彌厚翁の銅像が建てられた。斯る所は興村の民風がある所であり日新の氣風が認められる所でもある。功勞者の功勞が認められず、又た認めむとせざる所は、教化の行届かざる所と斷じて間違はないのである。知恩報徳は向上の行爲であり、萬物の靈長である人として始めて出来ることである。故に教化の事業として知恩報徳に目醒めしめ、其事に精進せしむる施設をなし、事業をなすは目下の急務である。故に地方自治體として教化事業を盛にし、人類の向上をはかるには年長者に敬意を表し、功勞者に感謝し、先輩を貴び民風を作興せねばならぬとする。如斯して始めて祖先崇敬が出来、祖先の勤勞を認むることも出来る様になる。又た感情に制せられず、利害に關はらないことにもなるのである。

今日の如く、社會の上位に居る者が、悪いことを敢てしたり、破廉恥を平氣でやる様になつて來ては、國民が相戒しめ、相互に慎みて教化をせねばならぬのである。此意味に於て國家の基礎である町村自治體は、大に教化の事業を延して民風の作興に努力せねばならぬとする。故に小學校ばかりが教

化の中心ではなく、役場吏員や議員も亦教化の主體なる事に目醒ねばならぬとする。

第二十七章 農民指導と宗教問題

農民の指導と宗教とは一見何等の交渉のない様に見えるが、實は大なる關係があるものである。元來、賢明なる農民の胸には固い信念があるものであり、信仰に立脚したるものである以上、信念や信仰に生かしむる宗教が、農民に歓迎される筈である。又は多くの農民は今日迷信の民であるから、之が指導に任ずる者が何等かの信仰を以て、之れに臨むて指導に功を奏するも亦當然の事である。現に我國に比較的農業の進歩せる所、又た比較的落着いて農業に従事するもの、多い地方は、盡く宗教の盛な所である。同時に、農民指導者として成名の人は、何等かの信仰に生きつゝある人である。

近來、餘りに唯物觀に囚はれ、物質萬能になつた爲めか、何處でも宗教が閑却され、宗教家の態度から俗惡になりて宗教が人の生活に織り込まれない憾がある。同時に、自己の職業に對する信念を缺き、職業を通して國民の分擔に對する責任感を缺き、景氣不景氣によりて心の動搖を來たし、物價の騰落によりて努力に輕重を生ずる、甚だ面白からざる現象を各方面に見るは、我產業界のために遺憾

とする所である。

農村の疲弊、農家困憊の原因は、人多く産業技術の低級や經濟行爲の拙劣や、政策上見るべきものがないと云ふ事など歸着すると論ずる者が多いが、よく内面を調査すると、農民の間に當年の信念が何時の間にか亡びつゝあり、當時の信仰が何時とはなしに消滅しつゝある事を看取せざるを得ぬのである。老農には信仰上働いたものがあり、精農には抜くべからざる信念を見たものであるが、斯る人達は今日の農村に漸次姿を消しつゝあるのである。同時に、信仰の上、信念の下に、農民を指導せむとするものも少くなつて、日を追ふて、唯物的に物質的に農民を指導せむとするものが殖へ行くのである。

近來、若い人達の間には各方面の自覺を見るのであるが、宗教上の自覺も亦一生面である。個人として信仰に立脚するもの、なす所は、漸次頭角を顯はすものがあり、團體として宗教上の信仰を求むる者の存する所には、農業經營上に生氣を見るのである。又た、待遇や肩書を眼中に置かず、信仰に安心して指導に全身全靈を投じて居る指導者の居る所は何處でも振興の曙光に接せしめて居る。故に農民の指導上宗教は重要な地位を占むるものであり、指導者にも宗教は閑却すべからざる權威あるものとする。

宗教には必ず人以上の或者を認むる事になつて居る、そうせぬでは必ず落付かず、安んずる事が出来ないのである。又た信仰に生きて來、生くる事が出來て來れば、明に神を認め佛を識る事も出来るのである。故に神の在すを信じ、佛の姿を見て居れば誰れも彼も安心立命が出来る筈であるが、多くの人を相手にするには、忙はしい世の中に奔走する人を中心にしては、宗教家に頼らねばならぬが常であり、信仰に導く人が居らねばならぬものである。故に宗教上の問題は、宗教を煩はし、宗教家が引き合に出されるは已むを得ぬ事である。

昔は一般民衆が低級であつた爲か、宗教家の存在が認められ、宗教家の權威が力強いものであつた爲めに凡愚は宗教家の導により、宗教家の信する事によりて、宗教の門に入ることが出來たものである。我國に於ける唯一の宗教である佛教が、國民生活に織り込まれたのは、全く宗教家の力であり渴仰の賜であつたのである。而も、今日は人智の進むだ爲めか、宗教家の努力なきによるか、兎に角國民の間に宗教は死物として取扱はれんとして居る。實際何處を見ても、時勢に順應して民衆を宗教の門に導かんとする宗教家が居らず、大衆をして宗教に目醒めしめむとする宗教家の努力にも接しない

のである。

寺の和尚さんは慾が深い、あそこの住職は妾を持つて居る、あの坊さんは御經を飯食ひ種にして居る、との評判が巷間に流布されても、門前市をなすが如き信仰渴仰の中心たる宗教家を見ないのである。又法話を待ち兼ねて、話座の開かる、や満堂立錫の地なき大衆を見、其處に隨喜の法雨を見るが如き宗教家の人格に接する事も稀である。諺に坊主が憎ければ袈裟までも、とあるが、宗教家の人格識見手腕が低下して、國民に宗教が時代遅れのものとして取扱はれ、大衆の間に神聖なる信仰が認められずなつて來た事は、かへすがへすも情ない事である。

僕の狭い見地に於ては、熊本縣の佐々木憲徳師の如き、名古屋の推尾辯匠師の如き、到處に亡村の人々を更生せしめて振興の村を作らしめて居る事實を見て、如何に宗教家の力が偉大であるかを知ると同時に、多くの宗教家があつて居らぬ爲めに、大衆と大衆指導者とが宗教の門に入る能はず、信仰を味ふ事が出来ないで居る事を痛嘆せずには居れないものである。

宗教家の自覺を促し、宗教家の活動を進め、宗教家の渴仰を現實にせむことは、我宗教界の問題である。國民の思想が問題となつて居る折柄、切に宗教家の存在を明にせむ事を希望するものである。

農村問題の八ヶ間敷場合、指導者を缺ける農村に於ては、御寺の和尚の人格が光つて來ねばならぬと僕は痛感するものである。

信仰が薄くなると同時に、信仰の對照物である寺院が會堂が閑却されて來るは當然の事である。大きな寺や、廣き寺領が到處で荒廢しつゝあるは、情ない事と思ふが事實である。然し、廢物利用は農業の面目であり、農民の本領である以上、寺院の利用は當然せねばならぬことであるのである。

農民の指導上、農民の勤勉ならしむる事は何處でも大切な事である。農業經營の改善が出來て來れば來る程、農民は忙はしく働かねばならぬは當然の事である。故に、農民を働き易くする。農家の能率を高める事は、時節柄緊急の事である。

農家の一番困るのは、足手まといの小供が居る事であり、之れに妻君が手をとられる事である。近時、農村には方面委員が出來たり、政策的に托兒所が設けらるゝ事が流行して來ると、誰でも考へつくは寺院の利用であり、比較的閑のある住職の家族を社會的に働かしむるといふ事である。寺院は、全く托兒所には理想的であり、寺の妻君が嫁母と共に托兒の世話をするも亦似合つた事である。僕の住むて居る愛知縣碧海郡の安城町は、もとの九ヶ村を合併した爲めに今や四千戸にもなつて居るが、

佛教の盛な所でお寺が多い。愈托兒所を設ける事になつて一舉に十六ヶ所を設けたが、之れが爲めにお寺が皆生きて來た、寺の人も亦社會に存在が認められて來た。全く自他を救ふ道であり、自他共に生きる方法である。

宗教問題の一は慥かに何處にもある。尤も狭い日本國に尤も廣い地積を占めて居る寺の處分である内緒で以て町村の寶物とせねばならぬものもあらう。建築の時代様式から國寶として保存せねばならぬものもあらうが、多くの寺院は早晚何んとか始末をせねばならぬ運命を見てものである。之れが農村社會事業の一である托兒所に利用され、穀潰であると見做されて居つた住職並に家族が社會的に更生する事が出来れば、寺院の處分として之れほど結構な事はないとする。

御寺の始末は托兒所に利用する丈けて濟まない、社會事業が進捗するにつれて寺院の利用は擴張されて來る。會のない町村に、寺院があるのは頗る結構な事である。天の配劑と見るべきか、兎に角寺院は將來必ず利用さるべきものであり、利用せねばならぬものである。佛も斯かる日の到來を希ふて居る筈であり、祖師も亦斯る事を願つて居る筈である。

農民指導に任ずる者は、須らく寺院の利用を教ふべきであり、寺院や敷地を社會的に利用せねばな

らぬとする。かくして民衆をひき入れて信仰に至らしむる事は、社會政策の見地から言つても、地方自治體の當然閑却すべからざる事とする。

第二十八章 失業問題と農村

失業には少くも二種の別がある。其一は全く仕事がないので失業となる者、其二は勞働忌避より來る失業者である。失業者が都市の產物とさる、は、昭和聖代の恨事である。賢明なるべき政府の失業對策は多く都市を中心にして居る。農村には何處でも餘剩勞力の消化に困つて居り、それが失業である事に氣がつかぬは、自他を馬鹿にした話である。

農村の自治を説く場合であるから、政府のなすべき事や、府縣のなさねばならぬ事は、茲處には云はぬ事にするが、町村當局者にして明確なる意識を缺き自覺をせぬでは、何處までも農村の失業は消化出來まいと思ふ。

此頃の窯業地方は極端なる不景氣に陥つて居る。窯業の勞働に従事して生活せし者は、職を失ふて盡く失業者になつて居る。其狀や慘たり、其生活や愁むべしである。それに對する府縣のやり方は如

何てあるか、河川の工事に使つてやるから一町村二名の失業者を世話してやるとの通告に接し、燒石に水の感もあるが、一人でも二人でも助かればよいとて町村では早速希望者を二名出したと云ふ所がある。何と驚いた事ではないか。政府の失業対策の大袈裟に驚いてゐる。而も町村に對しては斯くの如きものである。府縣の失業対策も聲ばかりで其行ふ所は如斯き始末である。人を馬鹿にし、翻弄するといはれても仕方があるまい。

全國町村長會が、農村の疲弊が深刻化するに衝動を受け、今回猛然として起つたのはよい。然し、農村の人をして職を得せしむるが先決問題である。それには政府の事業が何時でも中央集權のまゝであり、都市中心である。之等の弊を打破せぬ限りは駄目である。地方には耕地整理をしてよい所があり、開墾開拓をしてもよい所があり、用悪水の改修、溜池の修築等、よい事業が澤山ある。それ等は一時的の失業の救済でなくして、永遠に國利民福を招來するものであれば、大に民論を喚起して、政治家や政府を督勵せねばならぬのである。

一面、町村としても事業計劃を立て、一時を糊塗するよりは永遠の進展策を考へねばならぬ。農會と協力して産業計劃を立てれば、其處には必ず新しい事業が生れ、一時の失業者を救ふ事が出来る

のみならず、永久に餘剩勞力をも消化する事が出来るのである。道路の開修の如き、用悪水の改善の如きも亦然りである。

それには一面農村の人をして、勞働の神聖と功德とに目醒めしめ、とる金が少いからつまらぬ。馬鹿けとるてふ思想と觀念とを徹底的に打破せねばならぬとする。副業は餘剩勞力の消化が主目的で、金をとる事は從であるのに、金を主として考へるから副業は何處でも出来て來ないのである。閑て暮す事の弊に目醒め、餘剩勞力の馬鹿けてるに考慮して、閑を潰し、餘剩勞力の消化が出来れば結構と考へてやれば、必ず副業は生れ、熟練と生産の多量とが相當の代金を得せしむるのである。

よし副業によりて何の得る所がなくても、働いて居る以上は飲むだり食つたり、打つたり、買つたり、喧嘩する閑がないので、支出に於て大に助かるのである。今日の農村は、餘りに収入の増加にのみ氣をとられ、心を奪はれて、消費の點に深き分別を拂はぬは、悪い事であり、愚かな事である。故に或は味噌醬油の製造をやつたり、農産加工を進めても新しい仕事が出来るのである。

今の世の中は、銀行の信用が低くなつた爲めか、郵便貯金が多くなつて來る。金融機關を缺いて居る町村に於ては信用組合か郵便局への貯金が殖えて來る。信用組合に貯金の殖えるのは、地方に資金

を留める事であるからよろしいが、郵便貯金は盡く都會へ持ち出されて仕舞ふ。それが爲めに、地方の資金は涸渴し、従つて地方の事業を起し難い事になつて居る。故に、失業対策として事業を起すには、必ず金融の道を考へ、其利便をはからねばならぬのである。それには有利な事業であり、將來の發達を保證する町村の事業には、政府が補助金を出すと同様に、思切つて郵便貯金を低利資金として貸與する事に、積極的ならねばならぬとする。今日では其道は開けて居るが、何時も小田原評定でラチがあかぬは政府の補助金であり、無暗矢鱈に手續を面倒にして出溢るが低利資金の貸出である。如何に百姓は氣が長いとて、政府の氣の長いには、かなはぬのである。

然し、町村當局者に於ても、政府をして貸出を容易にする丈の信用を發揮する覺悟と用意とがなければならぬ。政府は何時も町村の信用を疑ひ、事業遂行に大事をとる。それが容易に事がはこばず出来るものが容易に出来ぬ所以であると思へば、此點に町村當局者が一層の緊張を要するは勿論の事である。

又、地方の富豪地主をして、斯る場合事業を起させ、資金を提供させる手段が町村當局者になければならぬとする。岐阜縣の窯業地では、町村の失業救済法に共鳴して五百圓千圓と私財を提供したも

のがある。如斯きは一地方に限るべきでなく、何れの地方に於ても流行させべき事である。或は地方では地主が自給自足の根柢をなさむとて、宅地整理を行ひ、地を築きて養魚池となし、庭樹を切つて野菜畑とし、堀を整理して養魚の孵卵場とし、豚小屋を作り、羊舎を建て、羊毛の加工等を始め、それに附近の餘剩勞力を使つてゐるもある。ともすれば、生活に脅威を受ける地主が如斯發心するは賢明であり、自他を救ふ所以でもあるから、目醒めざる地主をして、如斯事をなさしむるも亦町村當局者の責務である。

緊縮政策を呪ふも人情であらうが、それでは助からぬ、節約は宣傳を罵つても罵り甲斐のないのは失業の対策である。働かせて頂き度いと、頭から働く覺悟で全身を投げ出して居る一燈園生活者には食ふ事に困るものがないとは、何たる皮肉ぞや。故に働く事の神聖に目醒め、働くことさへ出来れば結構てふ觀念に生きるを得ば、金の割合に仕事が生れ、費用が少くて大きな仕事が計劃される事になるから、多くの失業者を救ふ事が出来る様になる。金を以つて食はせる考は行き詰り、仕事を以て食はせる考は行きつまたらぬ。失業問題を解決せんとする者は、須らく此消息に通ずべきである。

昔し、江戸より歸りし男、二宮尊徳翁に見へて、江戸は暮し悪い所である、水まで買はねばならぬ

と云へば、二宮翁は、それは何んと結構な所じや、水まで賣つて渡世が出来るてはないか、と。金に目をくれるものは助からぬ、仕事を追ふものは助かる。此道理に通じなくば、失業問題は解決されないのである。

高等教育を受けた人達は、多く就職難を訴へて居るが、地位や待遇を問題にするから、就職難が來るのである。働かさせてください、勉強が出来れば結構と云へば、到處に職があり、食がある。それを察せずして徒に就職難を愚痴す。自ら助くるすべを知らざるものは、他も亦助けてくれぬが當然なりとする。故に、農村に於ては此種の教育が大切であり、従つて失業問題の根本解決案策は、國民教育の改善に在る。町村當局者は此機會に於て、農村教育の根本に改善を加へ、職業尊重、勞働尊重の學風を起さねばならぬのである。町村費の過半を教育に費して、勞働忌避の思想を醸成し、拜金宗に墮する國民を養成する程、世の中に馬鹿な事はあるまい。故に此際思ひ切つて高等小學校を廢して補習學校にするなり適當の方法を講ずるは、失業對策にしても忘れてならぬ事である。

第二十九章 各種團體の統制と活動

農村の事業は、世の開けるにつれて繁雜となるばかりである。従つて統制が出来ねば、徒に住民を迷はしめて、何等福利を増進せぬ事になる。

何處でも町村費を以て町村會共の事業を行ふ事になつて居るが、税を資源とする税國に於ては、限りなく進展する事業を限りある町村税を以て支辨する事は、法が許さぬのである。其處で補助關係が出来、町村費を以て行ふ事の出来ぬ方面には、目的遂行のために各種の關係が出来るは蓋し已むを得ぬ事である。

多くの町村で町村費を以て支辨する主なる事業は、教育の方面に於ては小學校や補習學校の經營と交通機關の整備位である。他の事業は申譯に豫算を計上してに過ぎないので、中には補助費として役立つに過ぎぬもある。

故に教育の普及と向上どをはかる爲めに教育會が出来、衛生の方面に衛生組合が出来、農事改良を目的に農會が出来、經濟の進展をはかるべく産業組合が出来、實行を便ならしめん爲めに實行組合が出来、保管と販賣と金融のために農業倉庫が出来、養蠶地方では養蠶組合、山間では木炭組合が出来、特種の産物に對しては出荷を共同にする組合が出来、あれの爲めに此れの爲めにと、關係團體は雨後

の筈の如く續出し、遂に住民として所屬團體を辨へしめざるに至るもある。特に各種關係の間に勢力争を生じたり、豫算の争奪が行はれたり、甚だしきは甲が乙の廢止を企て、乙が甲の解散を主張し、收容出來ぬ不始末を續出し、迷惑に住民に及ぼし、損害を團體員に轉嫁するもある。故に其煩に堪へず、其損失に我慢が出來なくなり、何處にも團體の整理、廢團の聲が起つて居るは、蓋し當然の事である。

或る團では今尙團隊の指導訓練が行き届かず、特に郡役所が廢止されて益々不行届になつた感があるのである。就中、産業團體としては農會が一番經費を要するものであり、經濟機關としては産業組合が一番普及して居る。然るに農會に對しては、或は解散の聲が起つたり、休止農會が出來たり、産業組合には府縣より解散を命ぜられるものがあつたり、自滅するものが出來、言語同斷の醜態を演出するがある。所によつては、農會と産業組合とは仕事の争奪をやつて、勢力の競ひ農民の利害を犠牲にするもある。之れ統制を缺き、分擔を辨へざるが爲めであつて、自治の幼稚なるを曝露する事である。

順序よりすれば、如何なる機關も團體も、役場で統制が出來ねばならぬのである。町村長は何をさして置いても統制を遺憾なくする責務の人であるとする。各種團體長は、住民の福利増進を念願する以上、役場に歸へし、町村長に歸一せねばならぬのである。法の上よりせば、自治機關が何處でも自治の中心であり、各種團體は補助機關である以上、各自の分擔事業にこそ最善の努力をせねばならぬが自治の圓滿なる發達に合致する理解がなければならぬのである。適材適所は何時でも必要であり、賢明なる方法であるが故に、農會を分任せしめてよい人は農會長たらしむるがよい、經濟方面に手腕ある信用あるものは産業組合を分擔せしむるもよい、其處に澁滞があつたり、疑惑があつてはならぬのである。

現在、必要上郡を單位とする所に於ては、郡役所の跡に各種團體の事務所が出來、各種團體長は別人であつても、幹事に各種團體の事務を統制して居る。町村に於ても亦同様の事が行はるべき筈であり、そうならねばならぬとする。若し法律を根本に改正し、何等か統制が出來る事になれば別問題であるが、それは容易な事ではあるまい。故に何處でも現制度の下に、統制が出來る様に、且つ各種團體の當然の事業が遺憾なく遂行される様に工夫をせねば住民の福利は何時までも増進すまいとする。

町村の事業として尤も効果が大きであり、且つそれだけ急務であるは、各種團體の統制と活動を現

實にする事である。それには歸一分擔を知つて各種團體長の自覺、各種團體員の理解を進めると同時に、町村長の自奮自覺を要望せざるを得ぬのである。それには私心を去つて住民の福利増進に奉公の誠をさ、けねばならぬとする。

今や何處の町村でも經濟上にも財政上にも、非常の窮迫を感じて居る。公私經濟の緊縮が獎勵され消費節約を利用して豫算のきりつめ減額をなし、以て負擔の軽減をはかりつゝあるは、蓋し已むを得ぬ事であらうが、それは長くつゞくものではない。寧ろ、住民の經濟力を進展せしめて負擔力を養成するが賢明であるとする。されば、農會を始め各種團體の活動を助成し、産業組合の機能を發揮せしむるが、焦眉の急務であるであらう。

町村自治體の今日は全く多事多忙である、尤も眞剣であるも町村自治體である。而も勞多くして功少く、骨折るばかりで酬ひられるものが尠いては、天下之より愚なるはあるまい。故に萬難を排して計劃し、斷行すべきは、各種團體の統制と活動を現實にする事である。町村の有志有力者は勿論、町村の指導に任ずるものも、此處に研究工夫の勞を輸たし努力を最善にすべきである。監督の地位に在る府縣と政府とは、此處に用意と計劃とをすべしとする。

第三十章 農村計劃の急務

今日の農村は自治體である。故に凡ては之の自治に依つて決定されべきである。彼等の郷土を理想郷とするも、淨土とするも、彼等の任意であると。夫れ然り、さは云ふもの、計劃なき國家の誅求は今や自治體の能力を阻止し、府縣の上走る行政は、自治體の資力を枯渇に陥れて居る。而も農民の唯一なる作物の價格は一般物價に比して低價なるは周知の事實であるに、物價調節を標榜して立てる政府は之を知らぬ顔の半兵衛で黙殺してゐる。あの血を吐く思の農民哀號の聲を、腸を搾り出すが如き悲痛な叫びを如何に聞くべきや。今や農民の悲鳴丈けても、農村に住むものをして不快に感ぜしめ、都市に入りて其聲より遠ざからむとする者すらある。噫聖代の恨事何物か之れに如かむ。

如斯して今や安定の民は動搖し始め、温良の民は變じて危激の氣を帯びつゝある。其天職を呪ひ、其責務を怨み、世をも人をも呪はむとしつゝあるは、國家の基礎が動き其根本が枯れむとするものではないか。國家の大事とは之れである。國歩艱難の因は此處である。故に吾輩は曰ふ。農村計劃は凡ゆる政策中刻下の急務である、而して農村計劃の第一歩は、農村住民をして安定せしむる事であり、

農村の人をして前途に希望を抱かしむる事であると。

農村は既に自治體でない所はないことになつた以上、其實體は土地（疆土）と人民（住民）とであるは勿論、農業が主なる所であるから農村といふのであれば、農業が實體の内に數へられべきであるも亦勿論のことである。

農村の計劃を立つるに當つての基調は、土地と人と農業とを考慮せねばならぬは云ふまでもないが就中人を主とせねばならぬのである。封建政治の當時は、動もすれば土地を開くの目的に人を犠牲にしたことがあり、食糧生産の爲めに人を機械視したことがあり、その因習が今に残つて居り、古い頭腦の所有者は尙其の如く考へて居るもある。官僚といへば偉いもの、様に考へらる、時代は過ぎたがそれでも爲政者は官僚であるに間違はない。久しき間官僚が農民を食糧を作る動物の如く考へて居つたことが今日凡ゆる農村問題を惹起した原因であり、長い間農民間に人の意識が明瞭でなかつたことが、今や農民を窮地に陥れた原因であるとする。

都市に住むものと農村に住むものとは、陛下の臣民たることに於て、日本國民である點に於て、自治制下の住民たるに於て、何等の差別がない。彼に與へられたる權利は此にも與へられて居る、彼に

保證されてる義務は此にも保證されてるが故に平等である。生活に對する欲求も、生存に對する主張も、決して相異のあるべき道理はない。唯職業の點に於て相等しからざるものがあり、時に利害相反することのあるは已むを得ざることである。

既に平等であり、差別なき人である以上は、農村に住む人は文明の惠澤に浴し、文化の恩典に接することに於ても差別なき待遇を要求し、平等の施設を主張する權利がある。たとへ、職業が異なり、環境が違つて居る關係上、絶対に等しきものが得られないにしても、其根本精神に於ては差別を認むべき筈はないのである。

若し環境が國民的思想を涵養する事に於て、都市よりも農村が優つて居るならば農村には思想に動搖を來たさぬ計劃をせねばならぬ。又た業務の性質上農業が皇國精神を陶冶するに便利であれば、農村には之れに對する計劃上の用意がなければならぬ。國土の經營と國民生命を保證する事が國家彌榮の大道である以上、農村の繁榮が大事であれば、農民の生活安定を得べき農村計劃が出来ねばならぬ。要は農村に住居する人をして、物質的にも精神的にも、聊か満足を與ふることに、前途の希望を認めしむる様に農村計劃を確立する事は、凡る政策中尤も大事であり又た緊急を要する事であるとする。

今何人も、人としての生存に意識し、人としての生活に醒めて来た以上、單に經濟的に物質の慾望を満足する丈けて承知はしないのである。社會的に平等の待遇を受け道徳的に相互の人格を認められて尙且つ精神的に安んずる所あるを欲するのである。而も、農村に住める故を以つて、經濟的にも、社會的にも、道徳的にも、政治的にも、教育的にも、衛生的にも、娛樂的にも、都市の住民と同一ならざる、より劣つた、より下つた、より低き地位に置かれては、農村の人は年を追ひ月を重ねるに従つて離村を敢てするは無理からぬことである。否なそれが寧ろ當然であり、必然的の歸決であるとする。

古い語ではあるが、地を離れて人なく、人を離れて物なし、とあるは至言である。人は土地に住むべきであり、土地に働くべきであり土地に生れて土地に歸るべきである以上、人と土地とは離るべからざる因縁があり、關係があり、連絡がある。故に人事を論ぜんせば勢土地を考へねばならず、人生亦土地を顧みずして議すべきではない。

我帝國の疆土は長いばかりで巾がない、山が多くて耕地が少い、のみならず開くべき餘地が少い、故に今日、我國の苦痛は土地の狭小なることであり、問題の解決が容易ならぬことも亦之が爲めなる

が多いのである。

内地國土の總面積

三八、五〇七、七一九町歩 一〇〇

耕地

三、一九二、二五六町歩

二、七〇五、九七七町歩

一五、三%

原野

三、三三五、六七五町歩

文明國として資格を缺くものありとせば、我國に於ては國土の狭くて少いことである。今や萬國各々平和と幸福を希ふて協調し、之が爲めには門戸開放を條件として居るが、而も門戸は容易に開放されず、利源開發は協同にすべく叫ばれながらも、自己の利源は漫りに他の容喙を許さぬのが現状である。彼の南米アルゼンチンやブラジルは天下の移民を招致して居るとはいへ、其國の自由意志は尊重せねばならぬ以上、今後のことは今日を以て律すべき限りでない。

今日は尙生産率の高いことだけは我國の誇りであつて、近き將來もそれが減退すべく考へられない今や産兒制限論者も出て、其共鳴者も殖えつ、あり實行者もあるが大した影響はあるまいとするは、獨り吾輩のみではないと信ずる。特に生産を司る我農村に於ては、米麥の生産制限は出來ても、産兒

の制限は出来まいと思ふ。成程農村には戸数の減ずる所があり、人口の減少する所もあるが、それは離村者の爲めであつて、産兒の減少ではない。如何に農村が困窮に陥り、貧乏に苦しむと雖も、貧乏人子澤山の眞理は抹殺さるべきものではない。

人も知る、農業經營の困難なる原因は之が爲めであり、農家經濟の窮乏に陥る原因も亦此處に存するのである。試みに統計の示す所を見よ。

耕地耕作面積の廣狹に依り區別したる農家戸数の割合

農家總戸數に對する割合

種別年次	五反未満	五反以上	一町以上	二町以上	三町以上	五町以上
明治四十三年	三、七五	三、三〇	一、九三	〇、六〇	〇、二九	〇、一三
大正十年	三、五一	三、三四	二、〇九	〇、六一	〇、二七	〇、一六
昭和五年	三、四六	三、四二	二、一九	〇、五六	〇、二三	〇、一二

一町未満の耕作者は極めて少しづつ、であるが減じて一町以上の耕作者を増しつ、あるのは趨勢であるかの如く見える。此現象は結構なことであり、將來益其を助長するものと信するが、然し尙一町未満の耕作は六割八八、即ち略々七割を占めて居るが實際である。勿論能率の高い農民や、都市附近の

如き特種の事情ある所に於ては、一町歩未満の耕作で尙經濟上有利の地位に立つて居るのがある。然し由來教育の恩澤に浴する能はざる農民將來とても容易に専門の智識技能を受くるに容易ならざる農民は俄かに能率を高めるとは思はれない。之が出来るとは考へられない。而して一般の農家は特種の事情の下に置かるゝものと思ふが間違ひであり、やはり米麥が主要であるとして見れば、本邦農家の將來は悲慘を加ふるのみと斷定し得る。

土地の國民論や公有論もある、之れが我國にも唱道さるゝが、之れは馳の屁に等しく、嗅いだばかりで取り柄がない、二千五百九十餘年の長い歴史を持つて居り、貴い國柄である我國に於ては、昔々のその昔、それを試みたことがある。現に國有地もあれば公有地もあるがそれが何の功德を與へて居る。生産に何の偉績を上げて居る。吾輩は所有權の移動も考慮すべき問題であると思ふが、寧ろ土地の分配は人と土地との案配がより大切な而も緊急の問題であるとする。

不勞所得は道徳上面白からぬことである。働かずして人の勞力を喰ふものは油虫の如しと見るべきであるとするは、勿論然りであるが、さればとて論議に日を送り、話説に興がつて居ては、眞の農民は亡ぶるばかりであり、大切な生産者が滅び行くのである。故に國家は一日も早く其對策を樹立し、

安んじて農民が其業に勵み、樂むて、其職を全ふする様にせねばならぬ。農村の自治に於ても出来ることはある。自治に任かせてやれることもあるが、情實と積習とは到處の農村を占領して居る。容易に之を撃退することの出来ぬことは、苟くも農村を知つて居るものは肯定せざるを得ぬ事實である。故に國家の力を以つて國法の偉勢を以て、則る所あらしむることが肝要なりとする。

吾輩は改めて云ふ、農村計劃の要諦は、人と土地との案配をすべし、農民をして一定面積の耕作をなさしむるに在ることを。

農業は土地を使用利用する、而して生産を目的とする仕事である以上、一定の面積を要するは勿論のことである。而も我國に於ては所望の面積が得られず、所要の土地がないのである。さればとて爲めに農業は行へず、之を經營することが出来ぬとするは餘り思慮の足らぬことである。

農業に土地が必要であり、之を營む人の能率が高きを要するは無論のことであるが其經營の巧拙に支配さるゝことの容易ならぬは見逃がすことの出来ぬ事である。而して經營の巧拙は、農民の能率にのみ歸すべきものでなく、各種の施設の存否によること大なるは、正に熟知すべきことである。

不幸にして我國の農民は長く牛馬の如く取り扱はれ、機械の如く見られて居つた。額に汗する人の

多くは今の教育と没交渉なるが多く、粒々辛苦を體現する人には科學の惠澤に浴せぬが十中の九分まで、ある。而も指導者も技術者も先生も、今日まで經營に何等指導する所なく、何等經營に立ち入つて指示する所がなかつた。甚だしきは各其専門に囚はれて、農民を迷の淵に導き、惑の瀨に立たしめたのみなるがある。偶々能率の高いものがあり、經營に組織を考へ、利器の利用を試むるも、如何せん近い所に市場はなく、輸送の機關を缺き、金融の梗塞に遭ひ、販路がない爲めに、宛然玉を地中に埋めて仕舞ふが如きに終らざるを得ないことがある。

米の專賣も肥料の專賣も容易事ではない、而も斯る叫びの高まるのは、農民が文明の利器を利用し得ざる反響であり、經營苦心が動もすれば徒勞に屬することの不平の叫びであると聞くべきである。都市が凡百の機關を備へる丈け、それ丈け農村との隔りが甚だしくなり、都市に各種の施設が出来る丈けそれ丈け農村との差が大きくなる。故に都市では意見を得るが、農村では理想が逆轉する、街では座してよく用辨が出来る、而も農村では奔走して尙且つ用が辨じないのである。等しく勞働に汗を流して、彼は正當の報酬を得、此は徒勞の歎をなす。加之彼は奪はるゝ所少にして、此は苛斂誅求の苦を受ける斯くして此は益經營の資を失ひ、氣根すら喪ふて、遂に自暴自棄の民となる亦己むを得ざ

るではないか。

今や郵便貯金や簡易保険の料金を地方に還えすべしの説が出て居るが、それが説かれて居る間に、立派な田面に草が生へ、畑に木が茂りて、元の原野山林に還えされつゝ、あるは、何等の皮肉ぞや、農民をして失望せしめ、其職責を忘却せしめ、國土の經營を粗略にするに至らしめしは、抑も何人の罪なるか、吾輩は之を追及する暇のない事を幸とする。

農村計劃は是亦農業の經營を容易ならしむるに方法を立てねばならぬ、農民が低級であつても其經營に道を得ることにせねばならぬ。よし土地が狭くても之を補ふに經營の長を以てすることが出来る様にすべきである。農民の智能が啓發されず、土地が狭ければ狭いだけそれだけ經營の上に利便を得せしめねばならぬ。それには經濟機關の設置も大切であり、交通機關の整備も必要であり、輸送機關の開発も重要であり、販路を開展することも大事である。而してそれ等は皆、地方自治體の力のみでは出来ぬことであり、出来さんと欲して能はぬことが多いのである。

今や政府は農會に對する補助金拾五萬圓を増加して、以て農業經營に一生面を開かんとして居る。之こそ時宜に適した施設であり、應急の手段たるに相異なる。吾輩は之を喜ぶ、之を幸とする。然し

我國の農業は今生産組織に大變革を來たさねばならぬことになつて居る、經營に思ひ切つた革新をせねばならぬ場合になつて居る。それは勞力節約のことであり、生産費の遞減をはからねばならぬことであつて、動力や機械の應用がそれである。而も今日の動力は輸入品其儘であり、機械といつても農法の違つてゐる國のものである。如斯を用ひて果して經濟的なるを得るや、動力や機械の能力を充分に發揮し得るや否やは問題である。たゞさへ輸入超過の時節柄、その勢を助長するばかりではなからうか、貧乏の農村を益貧乏にする結果に陥りはすまいか。吾輩は此處に政府の施設を見ぬことを遺憾とする、思ひ切つた政策の實行が伴はぬことを物足らぬとするものである。

更に云ふ、農村計劃には農村の生命であり、面目である農業經營に就て一生面を開くことがなければならぬことを、而してそこに國家が膽大小心の施設を出來かし資小用大の機關を設けて斯民をして經營に希望を抱かしむることが出來ねばならぬことを。

農村と都市とは相離るべからざるものである以上は、其等の計劃も共通に考慮せねばならぬことのあるは勿論のことである。然るに世間往々農村を考慮せぬ都市計劃を試み、農村計劃を離れて都市計劃をせんとするものがある。今、我國に於て都市計劃の衝にあたりつゝ、あるものは、熟れも申合はせ

た様に範を歐米のそれに採りつゝ、あるは、蓋はんと欲して蓋ふ能はざる事實である。

農村を考慮せぬて築き上げられし巴里は、事なき時は何時も立派である。道路の整然たる、路傍樹の森々たる、建築物の堂々たる、流石は巴里子のした仕事の様に見ゆる。其處に社交的の垢抜けした人間が配置され如何にも餘裕ありけに見ゆる之等人間の活動は誰れが見ても世界一の都市の様に見ゆる。然し巴里を洗ひつゝ、ある河川に就て十分考へなかつた結果は洪水に市を浸され、彼等が誇とせし地下鐵道は盡く濁流に占領されて、市民は色を喪ふたことがある。伊太利の羅馬は古い都であつて久しい歴史を物語りつゝ、ある建造物の多い所であるが、顧りみられざる農村より流れ出る乞食の群に、如何に旅人の心持を悪くするかは、同國を見た人の周知の事實である。爲めに羅馬市の美觀がそがれ其權威さへ傷けられて居る。倫敦は世界第一の市であつた、商工業の中心であつた經濟界の世界的市場でもあつたことは何人も知つて居ることである。而も今は米國の紐育市に勢力は移りつゝ、ある。否移つて仕舞つたのである。それは背景である英國の農村が餘りに衰へきつた爲めであり、倫敦市民の生命が動もすれば脅威されることになつたからである。故に吾輩は、少くも歐洲の都市には皮相的に學ぶべきものありとするも、根本的に觀察して未だ師とするに足るものがないとする。而も我國の都

市計劃者は徒に皮相の觀察をして範を彼に採らんとする又採りつゝ、あるは、吾輩の斷じて採らざる所である今日の如くんは、獨り我都市の前途を誤るのみならず、國家の將來を危くするのと敢て斷じて憚らぬものである。

繰りかへして言ふ、比較的完全なる國家の建設をした國は、世界廣しと雖も我國の外にはない、萬國多しと雖も、我國に比すべき國は稀にすらない、されば我國の都市計劃は、後れたりと雖も世界のそれに好模範を示すことが出来ねばならず、向後世に國家を建設せん所に向つて其根本が如何に考慮されべきやを教ふことが出来ねばならぬとする。之には農村計劃と相待ちての都市計劃でなければならず、都市と農村と共通に考慮された計劃が出来ねばならぬとする。換言すれば國家の建設、改造向上より割り出された、都市計劃であり、農村計劃であらねばならぬのである。

我國の大都市は多くは、港灣を有せぬても河川に抱かれて居る。神戸や門司や尾の道の如きは川に縁がない様に見ゆるが、而も市民を養ふ水源は川に依るが普通である。我國の如き細長き國で、山嶽が脊骨をなし且つ之れが峻嶺高峯である所に於ては、歐米に見る可からざる急流があり、激流が生ずる小さい頭では想像が出来ぬ、小賢い人間の智慧や技術では計りかねる變化がある。而も今日の都市

計画には之れ等に何の考慮もして居らぬ。考慮仕様ともせぬは沙汰の限りであるとする。東京市の如きは雨さへ降れば數百戸の人は水浸しになり、不快の心持で不幸の病魔に襲はれて居る。金澤市の如きも六十年といふが、市の中央が水に襲はれて大狼狽をしたのが大正十一年の夏であつた。如斯は不幸にして枚擧に遑あらずである。言ふこと勿れ、それは都市計画以前のことであると、吾輩は今日の如き頭でなされた、都市計画後の都市は等しく此の慘状を見るの日あることは斷言して憚らぬものである。

時に我國の農村に何等の計画が無きが故に、作れといへば徒に農地を潰され通しであり、衛生といへば市民の事と解釋されて、農村には用悪水の考慮さへ拂はれぬ勝である。燈火は電氣に限る、動力もそれが便利といふと雖も、水源地の農村には没交渉の感がある。吾輩は農民の爲めに敢て不公平を叫ぶものではない。又徒に不平を列べるものでもない。そは國家百年の大計を誤り、累を將來の國民に残すを憂慮するからである。

市民と村民とは等しく日本國民であり、陛下の忠良なる臣民であるからには、平和と幸福とは共有すべきものである。而も今日市民に生の醒めが出来たばかりでなく、農民にも其醒が出来た。市民に

生活の意識があれば、農民にもある、彼に生活價値の意識が明かであれば、此にもそれが認められるのである。最早今日は市民と農民とを區別すべきでない、都市と農村とに於て人の差別を考ふるは、亦無駄なことである。唯だ都市と農村とは、土地と人との割合に於て根本的に異つて居る、職業も同じからずである。故に同じからざる計画が出来るが當然であるが、然し彼に計画の必要ありて、此に無用といふ理由はないのである。

吾輩は多年地方の爲めに最善の努力をした。農民の爲めと思へば寢食をすら忘れたものである。故に自治民政の衝に當りし人々と交際もした。意見の交換もした、頼まれて働いたこともある。彼の地方改革の事や民力涵養の事にも随分物好者と嘲けられるまで、東奔西走の活動もやつた。然し勞多くして效が少い、骨が折れても成績は上らぬ。それで飯を食ひつゝ、ある人や、それを御役目にしてるものにおいて、偶成績が上がりより成績を得たかの様に報告をしたり吹聴するもあるが、それは自己僞瞞であると吾輩は敢て曰ふ。

金をかけて夫程の効がなく、人を依頼して思ふ程の效果を見る能はず、官廳の威力を以つてして尙成績を上ぐるこの出来ぬのは之れ金が少い爲めでもなく、人才が居ない爲めでもなく、官廳が不熱

心の爲めてなく全く根本的に計画を建て、進行しないことに基因する。換言すれば行きあたりばつたり、其時の流に従ひ、其場合の勢に驅られてすることだから力も入らず、印象を深ふすることも出来ず感動さすることも容易でないからである。偶一生懸命でやつて見ても時を一貫した計画があるのでないが故に、時々話が變つたり、やる事が變つたりして、所謂拍子抜けがして仕舞ふからである。

故に吾輩は更に繰りかへして言ふ、農村計画は都市計画と併立すべきであり、共通的に考慮すべきものであること。而して一方に偏して双方に完全を期する能はずば國家の榮ある前途を必ず脅威することあることを。茲に農村自治の確立を期し、併せて農村計画の急務を唱道し、所見を天下に宣する所以である。

續農村自治の研究終

昭和八年十二月一日印刷
昭和八年十二月六日發行

續農村自治の研究

定價金壹圓參拾錢

8. 12. 7

著作權所有

著者	山崎延吉
發行者	竹内繁豊
印刷者	中尾五郎

發行所

東京市芝區新橋六丁目
振替東京一八七三四番

農林堂書店

發賣所

關東 東京・京橋 北隆館

關西 大阪・東區 柳原書店

同

中部 三河・安城 竹内書店

發行者は全國各地の著名書店で
發行致して居りますが品切の場合は發行所へ御注文下さい。

株式會社誠一社印刷

謹告

弊店は優良圖書の發行をモットと致して居ります關係上日本丁抹の發行地安城町驛前に支店を開設致しました。日本丁抹の觀察・研究に御出張の際は是非御立寄り御利用下さい。

多賀英裕著

最新罐詰及壘詰法

農家の智囊 第六篇

定價金四拾四錢
送料共

農學士 馬場 勝著

肥料の配合及施用方法

農家の智囊 第八篇

定價金四拾四錢
送料共

中村吉五郎著

學校家庭小温室の造り方と管理

農家の智囊 第十一篇

定價金六拾九錢
送料共

本田 桂著

菜種の作り方

農家の智囊 第十三篇

定價金參拾四錢
送料共

愛知縣農業補習學校著

蔬菜栽培

農家の智囊 第十四篇

定價金五拾壹錢
送料共

多賀英裕著

〔新刊發賣〕

農家の智囊 第七篇

販賣用
教材用
家庭用

蔬菜及び果實加工法

定價 金貳圓六拾四錢
送料共

渡會喜七著

〔新刊發賣〕

農家の智囊 第十二篇

尾張の蔬菜栽培とその販賣

定價 金八拾六錢
郵税共

愛知縣櫻井農業補習學校著

農家指針 (柱掛用)

再訂 農業曆

全壹冊 定價 金貳拾錢
送料 貳錢

内容の點、便利な點、紙質の點等すべてに親切にしてあります。是非一冊を家庭に備へて御利用下さい。

山崎延吉先生序
松浦長太郎著

四六版三百頁
寫真五葉設計圖四十圖
定價金壹圓五拾錢
送料拾八錢

農村に於ける臺所改善の研究

〔第三版〕

次 目

第一章	緒論	第七章	農村に於ける臺所改善の實例
第二章	臺所改善の現狀	第八章	臺所改善の獎勵法
第三章	農家臺所の改善の困難	第九章	臺所改善の講評會論
第四章	農家臺所の改善方針	第十章	臺所改善の品評會論
第五章	農家臺所の改善事項	第十一章	結
第六章	農家臺所の改善事項	第十二章	論

愛知縣六ツ美農業補習學校長 長谷川一男著

菜種改良栽培の研究

近 價 未 定刊

菜種は農村に於ける水田裏作物栽培として尤も有利な副業である。著者は我國菜種栽培の研究者として第一人者たる事は世人衆知の事である。曩に『修正菜種研究』を刊行して依り暫く品切中の處今回版を新たにして最新の研究及挿圖等を差加へ出版す。壹冊は各位の座右に御求めあらん事を。

終

